



校長だより 第30号

すてきな島



H27.9.25 日間賀中学校長 井本 仁

「あいさつは先に」
「返事は大きく」
「気づき、考え、行動する」

東北豪雨義援金・募金活動を行いました

本校では、関東・東北で大雨の影響により、水害に遭われた方々の役に立てるようにと校内で「関東・東北水害義援金活動」を行ってきました。9月19日（土）と20日（日）は、西港・東港周辺で、有志の生徒による義援金活動を行いました。一生懸命に呼びかける生徒の姿を見て、多くの方から義援金活動にご協力くださいました。2日間で、11万円を超える募金をいただきました。ご協力くださった皆さん本当にありがとうございました。



H27年度後期生徒会役員選挙

9月24日（木）、本年度後期の生徒会役員選挙立会演説会が開催されました。今回、会長、役員含め8名の生徒が立候補しました。自ら意欲的に生徒会活動に取り組もうという生徒が多く、たのもしく感じました。どの生徒が選ばれたとしても、よりよい日間賀中にするためにがんばってほしいです。



町少年の主張大会

先日の町少年の主張大会で、1年生の齋藤崇人さんの発表原稿全文です。すばらしい内容でした。

「当たり前」のありがたさ

日間賀中学校1年 齋藤 崇人

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が起こった。このとき、僕は小学2年生だった。幸い僕の住んでいる日間賀島は揺れなかったように思う。大きな地震が起こったという実感はなかった。テレビなどの報道で、揺れているところや津波で家や車が押し流されていくところを見たことを覚えている。卒業を間近に控えた小学六年生の人は卒業式を迎えられなくてかわいそうだなと思った。僕の震災に対する気持ちはそんな程度だった。

この作文で何を書こうかすごく考えた。そして「震災」について書くことに決めた。記憶をはっきりさせるために、動画サイトで改めて震災の様子を見ることにした。地面が割れていく場面、車の後ろから真っ黒な水が追いかけてくる場面、たくさんの人や家や車が流されていく場面・・・多くの人の悲鳴が聞こえた。この地震のすさまじさを感じた。とんでもない地震だったと感じた。

また、震災直後のあるテレビ番組で「当たり前であることに感謝しています。」と聞いたことがある。「当たり前のことが奪われる」とってどういうことだろうと考えてみた。僕が思う当たり前、「食べて遊んで寝ること」が頭に浮かんだ。もう少し考えてみた。一緒にいて何とも思っていない家族が、自分の目の前からいなくなる。一緒にごはんを食べていた人がいなくなる。学校の話聞いてくれていた人がいなくなる。一瞬の出来事が、全てを奪ってしまうことに気がついた。それは想像しただけでも悲しいことである。

再度東日本大震災について調べてみた。2015年7月10日現在、1万5892人の命が奪われていた。まだ行方不明者が2572人、そして震災関連死者数が3331人だとわかった。震災関連死者とは、「避難所の寒さや不衛生な環境によって死ぬ人のこと」だということも分かり、高齢者に多いことが書かれていた。死亡者の内訳で最も多いのが、70歳～79歳で約24%。60歳～69歳が約19%。僕の年代である10歳～19歳は、全体の約3%であることがわかった。高齢者が多いのは、逃げ遅れたのだと思う。また、亡くなった人の数を「体」で示してあることに寒気を感じた。生きている人だと認識されていないのだと思った。

原因も書いてあった。水死が全体の約91%、圧死約4%、焼死約1%。つまり、津波が来なければあれほど大きな被害になっていないことがわかる。そんなに大きな津波が来るはずがないと思っていたのだろう。僕は、自然の恐ろしさ、津波のすごさを思い知った。

僕が最も印象に残ったのは、僕と同じ10歳～19歳の人の死についてである。まだ若いのに落としてしまった命を思うと、とても悲しくなった。もっと勉強したかっただろう。もっと友達と話がしたかっただろう。遊びにいきたかっただろう。運動もしたかっただろう。部活もしたかっただろう。やりたかったことをたくさん残して死んでいったことを思うといたたまれない。僕は、その人たちの分も生きなければならないと思った。

みなさんは、今の震災地域の様子をどれだけ知っているだろうか。多くの人からの支援と努力により、復旧や復興が進められてきた。しかし、完全復旧がされるまでには、20年から30年かかると言われている。今も仮設住宅で生活している人がいること、慣れないところで生活しているのでストレスが計り知れないこと、ボランティアや報道量減少など僕たちが知っておくことは多い。そして、以前は新聞に東日本大震災による死亡者数や行方不明者数が一面に書いてあったのに、今では掲載されていないこと、オリンピック関連の工事に人手が必要で、ますます震災地域の復旧が遅れそうなことが、僕は心配である。

地震列島の中で生活している自分たちだから、いつ大きな地震が起きてもおかしくない。僕たちがやらなくてはいけないことは、「命を大切にする」ことである。東日本大震災のことを振り返ることで、自分の命は自分で守ることや命の尊さを知った。そして、海に面した場所で生活する僕たちは、安全に避難する方法を家族で話さなければならないと思った。また、「当たり前」のありがたさを知ることができた。毎日の生活を楽しまたいし、友達ともっとたくさん話したい。震災で亡くなった人のためにも、そして自分自身が大切な「当たり前」を無駄に過ごすことがないよう、しっかり生きていきたい。

これで発表を終わります。